

# はにんす

特定非営利活動法人  
沖縄伝承話資料センターだより  
第5号 2007年1月31日発行  
TEL 098-890-2455 FAX 同  
事務局アドレス [denshow1@otc.ne.jp](mailto:denshow1@otc.ne.jp)

## 理事長あいさつ

照屋寛信

新年あけましておめでとうございます。

激動の平成十八年が過ぎ、私達NPO法人沖縄伝承話資料センターは満一歳になりました。駆け足ながらも、落とし物がないよう、ひと月二回程度で総務・財務、編集・IT、調査・研究の三委員会をもち、運営委員会で統括し、会員の要求に応えられる活動を目指して、日夜邁進してきました。これも偏に会員のご理解とご協力の賜りと感謝申し上げます。

去年は前理事長、遠藤庄治先生のお別れ会を催しました。六〇〇名を超える方々がいらして、微力ながらも一人一人が力を結集させれば、どんな困難な活動でもやっつけていける勇気を私達に教えて下さいました。

さて、私達は平成一九年度の総会に向けて準備をすすめています。残す二ヶ月で総務・財務活動では、会員の新規加入、継続加入を再度呼びかけ、会の運営を支

える財源の確保を強く行います。そして、小澤昔話研究会と共同で、再話集の出版およびその他の民話資料の販売等の財政活動をしなごら、テープ収録話のデジタル化への作業支援等を行う予定です。編集・IT活動においては、センター便りの「はにんす」年度最終号を発行し、ホームページも更新し、会員のメーリングリストを益々充実させる予定です。調査・研究活動では、話者を迎えて「民話の部屋」を計画しています。また、樋口淳先生、小澤俊夫先生の講演会等も計画中です。

もうすでにデジタル化作業に着手している日々の活動ですが、残された十八年度、そして十九年度の活動においてもあいかわらずのご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 会費納入について

平成十八年度がもうすぐ終わります。会費未納の方は同封の振り込み用紙をご利用下さい。会の運営にも大きく支障がありますので、早めに納入下さいますようお願いいたします。

## メーリングリストの登録を

センター会員の通信案内を充実するため会員用のメーリングリストを作成しています。パソコンあるいは携帯のメールアドレスをお持ちの方はセンターのファックスかメールへご連絡下さい。センターへの連絡は本紙の右上に表記されています。

## 「民話の部屋」へのお誘い

センター主催の事業として、民話の語りをご紹介します。次の日程です。ご家族、ご友人お誘いの上お越し下さい。入場無料

時間 平成十九年二月二十八日(水)

開場午後6時半 開演七時〜八時半

場所 沖縄市立図書館1F 集会室

話者 阿波根昌栄さん(北谷町)

横山幸子さん(福島県)

直接、生の語りを聞くチャンスがない我々にとっては貴重な時間となることと思ひます。

## 小澤先生講演のお知らせ

沖縄民話の会設立当初より、支援して

こられ、現在センター顧問をされている小澤俊夫先生が来沖され、読谷村生涯学習課主催で講演をなさいます。昔ばなしは、子どもの成長する姿を語るものであるという先生のおはなしは子育て中の親たちや保育者、教育者に勇気を与えてくれると考えます。是非、ご参加下さい。

入場無料です。

期日 平成十九年三月九日(金)

開場午後6時半 開演午後七時

テーマ 『心を育む

〜読書へのいざない〜』

場所 読谷村文化センター中ホール

## ふくしま民話茶屋の会との交流

去る十一月一日に那覇市ぶんかテングス館にて「ふくしま民話茶屋の会」のPRをセンター会員四人が手伝い。その後、夕方から会員が十二名参加し食事をしながらの交流会をした。福島側からは福島の語り、沖縄側から琉球舞踊と語りを披露した。

## 人形劇ていーだ の紹介

豊見城市内のお母さん方8名のメンバー(センター事務局の京美・清美も所属)で、毎週火曜日の午前中を活動日として、保育園、幼稚園、小学校、老人ホームのデイサービスでの公演を行っている。昨年4月に沖縄の昔話「犬の足」を人形劇に仕上げ、子供達やお年寄りからも好評

# 民話エッセイ

## 島くとうばと昔話

会員 謝花秀子

四年前に「しまくとうばを楽しむ会」という会に入り、島言葉に関心を持つようになった。毎月一回の勉強会では、皆さんうちなーぐちで挨拶を交わし、うちなーぐちで自己紹介をする。童謡や童話をうちなーぐち、つまり島言葉に訳をしたり、自分の書いた手紙や挨拶の文章を島言葉に書き換えるなど、面白い活動をしている。昨年、九月十八日を「しまくとうばの日」とすることが決まり、「しまくとうば大会」などが県や地域でも催されて成人も児童・生徒も参加している。また、小・中学校では「うちなーぐちクラブ」などのクラブ活動があり、私たちの会員も何人か講師として授業を受け持っている。

島言葉を文化の一つとして伝承し、日常生活でコミュニケーションの手段として使えるようにしたいと思っている昨今、二十数年前に参加した民話調査を思い出す。

山原のある村の調査で、公民館に老人会のお年寄りが十数名集まった。私の班には三人の男女のお年寄りがいらした。初対面の雰囲気をやわらげ昔話を思い出してもらおうと、「雀孝行」など短い話を共通語で話したのだが、私が話し終わると、おばあさんはうちなーぐちで「ヌーガ、ネーサンターガル ワッターヤカン ユーシツチャーサミ（なんだ姉さんの方が私たちより、よく知っているじゃないの）」と言われた。私がうちなーぐちで語っていたらおばあさんから昔話が聞けたのではと、自分がうちなーぐちでうまく話ができなかったことが残念でならない。別の調査日だったと思うが、うちなーぐちで語ってくれたおじいさんに「お孫さんにも話してあげますか」と尋ねると、「ンマガヌチャーヤ ヤマトウグチル チカイグトゥ クンナハナシェー チカチェーンーランドゥー（孫達は和言葉を使っているからこんな話は聞かしたことはないよ）」と言われた。普段は共通語を使っているお年寄り、そんな口からうちなーぐちが消えていく——島の言葉と一緒に昔話も失われてしまう。そんな心配をしながらの民話調査だった。

小学生の時、教室でうちなーぐちが禁止され、「方言札」なるものを首に掛けられる子がいたが、平成の現在、島言葉の復活の時である。自分たちの島の言葉、地域の言葉の良さを理解し、大事にする心が育って欲しい。そして、島言葉で昔話を語り、子や孫に伝えることができれば素晴らしいことである。

## 一周忌を偲んで

遠藤先生ありがとう

村山（運天）悦子

遠藤先生は、大学で学ぶことのすばらしさを教えて下さった先生方のお一人でした。古代文学の講義、大阪・奈良・京都への万葉旅行、口承文芸研究会での調査等、先生からご指導頂いたご恩は、卒業して現在の司書の仕事に繋がっています。

調査で学生を気遣う先生のやさしさを思い出します。

沖縄の民話調査・研究でエネルギーをいっぱいお使われた先生、安らかにお眠り下さい。

## 伝承話資料センターで販売中

1. 追悼 遠藤庄治 — 沖縄の伝承話研究と教育に捧げた生涯 —

定価2000円(センター会員価格1000円)

2. 子どものための民話 定価2000円

3. CD 昔話ふるさとへの旅 沖縄 定価2000円

4. CD12巻セット 日本昔話精選集「ふるさとのむかしむかし」

遠藤先生最後の業績となった民話集です

語り手 平良とみ(NHK ちゃらさん出演)

市原悦子・常田富士雄(テレビ日本昔話のナレーター) 定価29000円